



社会福祉法人 友愛学園  
広報紙 Vol.22

発行日 2015年 3月1日

発行人 社会福祉法人 友愛学園  
〒198-0001

東京都青梅市成木2-107

電話 0428-74-5453

F A X 0428-74-6087

http://www.yuaigakuen.or.jp/



題字は学園創始者元理事長 故実川 博氏書

## 新年の課題



理事長 柘植 吉治

◎新年早々の新聞記事で、障害者福祉報酬（国等から福祉施設へ支払われる報酬）減額との大きな見出しで報じられました。この方針が政府部内で確定したかのような報道であり、高齢者介護の現場と同様にこの分野でも、といった重苦しい気持ちを抱きました。その後の報道で、政府部内での調整の結果、現状維持に落ち着いたことですが、これで喜んではいられません。ここ数年、少しずつでも増額されていたものを、現状維持に止めたに過ぎません。

政府サイドの説明では減額を実施したとしても、社会福祉法人の多くが財政収支でプラスとなり、かなりの額の内部留保金を蓄積しているとの理由で、福祉施設の経営上に支障は生じないと言っています。しかしほとんどの法人では無計画に、法外なため込みを行っているとは思えません。当法人でも一定の額を保有してはいますが、借

入金の返済、運転資金、建物・設備の更新などのための蓄え等、殆ど理由のない蓄積はない状態です。現在経営する五カ所の事業所（運営受託事業二カ所を含む）の財政状況でいえば、毎年、多くの事業所で辛うじてプラスの状態を保っている状況にあります。このような背景の中で早くから懸念されてきた、高齢者の増加等に伴い高まっていく社会保障費の増加にストップをかけ、さらに削減を目指すのが政府の方針であるとするならば、当法人においてもこの際、改めて長期に亘る見通しをたてることを、早急に行っていかなければならないと考えます。

◎さて、今ひとつ抱えている今年度の重要な課題として人事制度の大きな変革があります。これは数年に亘って専門家（コンサルタント）の力を借りて検討を続け、さらに対象となる職員の見解も聴取して今日に至ったものです。既に新しい制度の実施方針については大筋決定しており、年度内には関係する諸規程の整備も完了する手はずとなっておりますが、この制度改革によつて期待される効果としては、二つあると考えています。一つには職員一人一人の業務に取り組み意欲と資質が向上し、法人としての社会貢献度を高

めていく効果が期待されるということであり、二つ目には、先に述べたように、国の政策に直接的に頼る法人の財政であるが故に、限られた人件費財源を効率的に配分することで、将来に亘る経営の安定を図ることにあります。率直に表現すれば、先々に亘る人件費の圧縮を期待するものではありませんが、発足に当たっては各人の給与が現状を下まわらない配慮を可能な限り行っています。

新制度では、人事考課の手法を採用し、職員個々の業績評価に基づき昇格・昇給を実施することとしています。格・昇給を求めるとしては、評価される立場と評価する立場の十分な意思疎通、お互いの信頼感確保が絶対の条件であり、そのため評価者の研修を十分に行うことが前提条件と考えます。この手法は一般企業をはじめ、既に広く採用されているところですが、評価が杜撰であったり、人件費削減に特化されてしまっている傾向も指摘されています。当法人としては、そのような結果を招かないためにも、制度の問題点を早期に見出し、その都度是正することで制度の成熟を期したいと考えています。

# 友愛学園 作品展

かわいいモノと小さな芸術祭



二〇一四年十月四日から十月十三日の十日間にわたり、「かわいいモノと小さな芸術祭」を開催しました。

今回は「アート・フッション」をテーマに二十の障害者施設が参加し、約二百点の作品が展示されました。

会場は、青梅市内にある「BOX・KI・OKU」「繭蔵」「さくらファクトリー」の、三会場を使用させて頂きました。来場者は、延べ三千人にも上り、大盛況な作品展となりました。

開催中には、色々なイベントを企画し、来場者と一体となって盛り上がる事が出来ました。

初日には、オーブン記念イベントで、七色の声を操るシンガー&コンポーザーの「おおたか静流」氏と西アフリカの伝統音楽sabarの至宝「ワガン・ンジャエ・ローズ」氏によるライブコンサートをして頂きました。おおたか静流さんが着ている衣装は、利用者さんが作ったものです。演奏の合間に衣装替えもあり、作品と音楽のコラボを感じるひと時となりました。

また、もう一つの企画で、画家の「中島由夫」氏によるライブペイントを披露して頂きました。思いついた物をそのまま絵に表現している姿からは、絵を描くことの楽しさが伝わっ



てきました。  
音楽に合わせて絵の具を飛ばし、絵を描くパフォーマンスは圧巻でした。とても存在感があり、楽しい時間でした。  
かわいいモノと小さな芸術祭開催中に、十の体験ワークショップを行いました。Tシャツに絵を描く・和紙で帽子を作る・積み木やキャラプレート作成など子供や学生を中心に多数の方と一緒に様々な物を作り大賑わいとなりました。  
作品販売も行いました。ジャム、菓子、バック、スカーフなど、たくさんの方が置かれました。手作業で生まれた作品は、個性的なモノばかりで、来場の方々も大いに楽しんでおられました。中には、予約をして下さる方もいて、繋がりが生まれる場でもありました。  
かわいいモノと小さな芸術祭は二回目の開催となりました。参加して頂いた障害者施設の方々、ボランティアの皆様を支えられ、今回も大盛況で終わる事が出来ました。ありがとうございました。  
また、次回開催に向けて、斬新で印象に残るそんな作品展が出来る様、準備していきたいと思えます。

# 青梅宿アートフェスティバル 二〇二四に参加しました

友愛学園では、利用者さんの作品を通して、地域への文化の発信と、地域の文化活性に取り組んできましたが、その活動の一環として継続的に参加してきた、青梅宿アートフェスティバルに昨年も参加しました。

今回は、ゲームコーナー・ゆうあいアート・飲食販売の三つを行いました。



どのブースも好評で、大勢の方との交流が楽しいイベントになりました。

ゲームコーナーでは、子供を中心に多くの方が遊びに來られました。ピンボールが人気で、前日も来て下さったお子さんもおいて、「前回楽しかったので、また来ました」と嬉しい言葉を頂きました。ゲームコーナーのスタッフは着ぐるみを着て子供たちと触れ合っていました。テーマにあるように、陽気な雰囲気が出ていた空間だと思いました。ゆうあいアートでは、つみき・和紙はがき・しおり、陶芸のカップ、お皿、



オブジェ、染め物を展示しました。

染め物は今回が初めての出品となりましたが、気に入ってくれた方が多かったです。

飲食販売では、甘酒、コーヒー、うどんを用意しました。天気は良かったのですが、風の影響で寒かったこともあり、皆さん喜んで飲んで行かれました。甘酒は、小澤酒造株式会社さんから酒粕を購入し作りました。うどんもダシが美味しいとの多数のご意見を頂き、飲食販売はとても繁盛しました。



# 友愛 第39回 学園祭

昨年十一月三日、今回も好天に恵まれ、さわやかな秋晴れのなか、第三十九回学園祭が開催されました。

地域の皆様をはじめとし、来賓、ご利用者家族、近隣の福祉施設・作業所関係者など、昨年を上回る約六百人の方々のご来場をいただき、盛況のうちに終わることができました。

開会式では、柘植理事長の挨拶の後、

青梅市障害者福祉課長木村様、成木二丁目自治会長永井様のご挨拶をいただきました。

ステージ企画では、成人部及び児童部ご利用者、職員の踊りと歌、パフォーマンスがあり、日頃の練習の成果を十分に発揮しました。

ゲスト出演者多摩リハビリテーション学院の楽器演奏やレゲエバンドによる予定時間をこえる熱のこもった演奏など盛りだくさんでした。毎年トリで登場する神代太鼓は、フィナーレを飾るにふさわしい太鼓演奏でした。

模擬店では、うどんや焼きそば、ジャ

ガバター、焼き鳥などが好評でした。多くの方にご利用いただき、売り切れ続出するにぎわいとなりました。

例年のように呼びかけに対して、多数の物品の提供をいただいたバザー売り場も早くから行列ができ、ほぼ完売しました。

地域の参加団体、「なかま亭」や「かもんみる」も調理パンやクッキーなどが人気の的でした。

園庭中央のあちらこちらのテーブルでは、ご利用者やご家族の方たちが食事を取り、ステージ上の演奏などを、楽しまれていました。

当日、学園祭にボランティアしていた方たちは約九〇名になり、学生から社会人の方たちまで多くのボランティアの皆様ご協力ありがとうございました。

余談ですが、学園祭は実行委員会が中心となつて約七ヶ月かけて準備します。

各部署から集まった実行委員が約六回の実行委員会を開催し、会場、広報、ステージ、模擬店、バザーなど九つの係りを担当し、準備をしています。

次回は記念すべき第四十回学園祭を迎えることとなります。

是非とも、来年度学園祭にご来場ください。



# はあとぴあ祭

昨年一〇月一八日（土）に第六回

はあとぴあ祭が開催されました。昨年も穏やかな天候に恵まれ、たくさんの方にご来場頂き、賑やかな祭りとなりました。開会式には今回も桑原区長をはじめ、前田区議会議長、都・区議会議員の皆様、友愛学園柘植理事長にご参加頂き、利用者様の代表による開会宣言とテープカットで、はあとぴあ祭が始まりました。

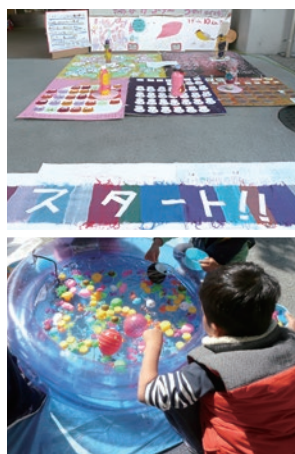
出店は、新たに二団体（『子ども総合支援センター』、『ホープ就労支援セン



ター』が加わり、渋谷区内の多くの団体にご参加を頂きました。また、今回も引き続き被災地支援販売コーナーを設け、東北地方の施設が製作したクッキーやコーヒーの販売を行いました。模擬店は、お寿司、焼きそばの定番メニューに加え、今回初登場の「はあとぴあ原宿」焼印の入った今川焼がとても好評でした。

ゲームコーナーでは、輪投げとヨー釣りがあり、どちらも大賑わいでした。輪投げのブースは、利用者様が工房の活動で作成したカレンダーや生地をアレンジして作られ、素敵な輪投げコーナーとなりました。

二階の工房では、「紙」「藍」「織」の



各工房の見学・体験コーナーを設けて、多くの方々に、利用者様の普段の活動や作品を知って頂くことができました。ステージ会場では、川上千里さんによる昔ながらの玩具遊び（バルーンアート、パッチンかえる、紙鉄砲、ぶんぶんゴマ）や南京玉簾の演芸と、「ミュージックパレット」によるコンサートが行われました。演芸では、実際に玩具を手にとって遊ぶ機会があり、多数のお客様が手に取って楽しんでおられました。音楽コンサートでは、利用者様が普段の音楽療法活動の時間に楽しんでいる楽曲や大流行したアナと雪の女王の主題歌で、踊ったり、大合唱す



るなどして楽しく盛り上がりました。今回ののはあとぴあ祭の開催にあたり、例年のように渋谷区の各関係の皆様、友愛学園本部の皆様、ボランティアの皆様など、多くの方々にご理解とご協力を頂き、心より感謝いたします。これからも愛される地域の祭となるよう努力してまいりますのでよろしくお願ひ致します。また今年も皆様に元氣にお会いできることを楽しみにしています。

# 友愛学園 児童部

## アルストロメリアの花束を

今回は平成一九年より親交を持たせて頂いているTOKIさんとの出会い、児童部そして子ども達との関わりについてご報告致します。

それは平成一九年一二月に廻ります。時期はクリスマス。児童部の職員は、この時期毎年、決められた金額の中で子どもたちからリクエストされたクリスマスプレゼントを探して回りまです。当時、一人の職員も同じように担当する子どもたちのプレゼントを探してディスプレイショップなどを回っていました。そんな時に何気なく入ったお店で「これ位の予算で買える豪華なおもちゃはないですか」と店員さんに尋ねたところ、ほどなくして店のいかにもオーナーの雰囲気を持ったTOKIさんがやってきました。学園の子どもたちのクリスマスプレゼントのことで、お店を回って探している事情などの話をすると、「それでは、その施設に何か送りますよ。」と話が展開され、そこから事あるごとに大きな段ボール箱で玩具や衣類などが届くようになり関係が始まりました。

交流が始まった当時には、ショップ

オーナとしてのTOKIさんの姿は知らなかったため、気前の良い実業家さんという認識でした。それから関係性が続いていく中、平成二二年に入つたある日、TOKIさんから唐突に一本の電話を受け「友愛学園児童部の為に歌を作ってCDを出したい。」というお話しがありました。正直、何のことも言っているのかと混乱をしたのを覚えています。TOKIさんは、STEALTHというバンドユニットを組まれており、そのメンバー達にも賛同を受け、アルバムの作成が進行されていくことになりました。そのメンバーが音楽業界で、とても有名な方ばかりで、さらに驚愕することになりました。

そして平成二二年二月二四日、アルバム「Astronomia アルストロメリア」が発売されました。一般の量販店で購入できる物ではありませんが、TOKIさんのファンの方々を中心に沢山購入して頂き、その売上げで児童部の壁や天井、扉の修繕、子どもたちが使うテーブルの購入という形で売り上げ金額のご寄付を頂くこととなりました。

「アルストロメリア」とは、花の名前で別名、「百合水仙」というそうです。「CDを買って下さったファンの方々の気持ちやCDという花束に変えて届けます。」という想いを込めてつけられたタイトルと、TOKIさん自身が記されています。

二月二四日発売と正に、とてつもない大きなクリスマスプレゼントとなったことは、言うまでもありません。

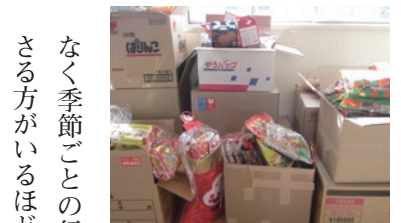
クリスマスプレゼントはそれだけでは終わりませんでした。このCDをきっかけとして、TOKIさん率いるバンド活動において、知的障害の事に触れてくださったりすることなどを通じて、翌年のクリスマスに全国、北海道から鹿児島まで一〇〇件を優に超えるファンの方々より子どもたち宛にお菓子やプレゼントが届いたのです。中には、子ども一人一人にメッセージカードを添えてくださる方、子どものアレルギーを心配して、お菓子の成分表を自分で書いて同封してくださる方、同じように障害者に携わる仕事をされている方、と本当に気持ちのこもったプレゼントばかりです。この気持ちは、その後もずっと継続され、クリスマスだけでは



CDジャケット



TOKIさんへ理事長から感謝状



届けられたお菓子とカード

昨年一〇〇件を超える方々からクリスマスプレゼントが送られ、TOKIさんの想いのまま「たくさんのお花束」を受け取るようになりました。そうした中、昨年もクリスマス当日にTOKIさんご本人が学園に来院されました。到着されたのが夜間であった為、子どもたちは眠りについていて、会うことが出来ませんでした。そこでTOKIさんから子どもたちが見ているテレビの話題が出され、子ども達の実情をお話したところ、子どもたちすべての部屋にテレビを設置したいとの申し出がその場でされました。

TOKIさんとの出会いは、子ども達にとつて多くの方々との出会いにつながり、この場所で暮らす三五名の子どもたちの「生活」「育ち」と日々、現場で向き合う職員にとつて大きな後押し、励みとなっています。大きな大きな「アルストロメリアの花束を」、ありがとうございました。

# 友愛学園 成人部

## 作業棟外部 改装工事の完了

前号にて作業棟二階の改修工事についてお伝えしましたが、今回、作業棟外部改装工事を完了しましたのでご報告致します。

昭和五十四年三月に建築された作業棟は、アイボリーの塗装をまとい、落



ち着いた雰囲気を提供してくれていました。外壁および塗装の老朽化、昨年度建設した第二作業棟との色彩的共存を考え、十一月十九日より年末に掛けて工事を行いました。

当初は単色での塗装を予定していましたが、工事担当業者の協力もあり、三つの色を選定し塗装を行っています。塗装前には防水、清掃、外壁補修を行い、彩りも合わせて新しい雰囲気を提供してくれています。

今号の最終ページにある、主任リーダー研修、理事会も早速この作業棟の二階で実施されました。今後、会議、研修だけでなく、様々な使い方をしていく予定です。

## 桑刈り

十二月六日、七日の二日間で桑刈りを実施しました。天候にも恵まれ、暖かい日差しの中で行う事が出来ました。例年、多くのボランティアの皆様にご協力を頂いております。今回はいつも以上に大勢で、両日合わせて一〇〇名以上の方が参加して下さいました。毎年楽しみにしていただいている方から、初めて参加された方まで、皆さん手際よく作業をして下さったので、

予定よりも早い時間で終わることが出来ました。夕方からは、少しの時間ですが食事と飲み物を用意し、慰労会を開かせて頂きました。

職員とボランティアの皆様は勿論のこと、ボランティアの皆様同士の交流も深まりました。人と人が繋がるとても暖かい行事となり、来年がととても楽しみです。

今回、ご協力くださいました皆様には、大変感謝しております。ありがとうございました。





# 青梅福祉作業所

前月号から今号の間にいくつかの行事がありましたのでその様子をお伝えします。

## 宿泊旅行

昨年の十一月十三（木）・十四日（金）に茨城県大洗海岸方面に行きました。



宴会風景

総勢八十人以上の参加者ですから、宴会風景の写真を見ていただくと分かるようにちよつとした会社の慰安旅行です。一昨年は高足ガニ、今年はアンコウ鍋です。普段めつたに食べられない食材ですからみなさんは興味津々でした。

泊まった旅館の近くまで東日本大震災の津波が来たそうです。その津波の影響を奇跡的に大きく受けなかった大洗水族館では定番のイルカショーなどを楽しみました。めずらしいダイオウゾクムシ（巨大なフナムシ？）の展示があり、おみやげコーナーにはその姿が描かれたクッキーを売っていました。クッキーにフナムシのような姿の絵なのですが、勇気ある人が買っていました。

観光名勝の袋田の滝では大勢の人が来ていました。平日なのになぜだろうと思つたら、なんと県民の日でお休みの人も多く、袋田の滝の入場券も無料だったので。そのため旅館へ向かう道路は想定外の大渋滞で帰り用に持ってきていたDVDが見放題？で、それはそれで楽しかったようです。

## 新年餅つき大会

今年の一月五日（月）は恒例の、仕事始めと餅つき大会です。



当日は、天気もよくとても良い雰囲気だったので「さあ、あしたから仕事だぞ。」という気持ちがいってきました。

ご家族の方も参加して、餅つきのサポートや、室内ではからみ餅やあんこ、きなこ餅を作っていました。ア

ツアツの餅を手際よく一口大にちぎっていきます。こういう作業は経験がもつとも大事です。



ご家族のベテランの技

地域にさまざまなサークルがあり、ガイドヘルパーというサービスも浸透してきたので、通所型事業所における「余暇支援」としての役割は小さくなってきています。その分、働くところとしての役割に重点が置かれたわけですが、みなさんと職員、家族、地域の人たちの心をつなぐ上で「行事」は、なくてはならないものだと思います。

# はあとぴあ原宿

施設入所・生活介護

## ●杜の風上原への出張販売

前回の広報紙二十一号でもお知らせしましたが、昨年の六月から渋谷区内にある特別養護老人ホーム『杜の風上原』に月一回、麦工房のクッキーやお菓子を中心に作品の出張販売に行っています。これは、『杜の風上原』が、毎月一回、入所者やその御家族、地域の方々を対象に『ひだまりカフェ』と言うイベントを開催していて、その場で販売して欲しいとお声掛けいただき、実施しているものです。

販売するスペースの関係で、大きな作品は持って行けないのですが麦工房以外の藍工房・紙工房・織工房の展示・販売も行っています。フェルト製品や小さな織製品が売れ筋です。

そして主役の麦工房のクッキーを初めとするお菓子の売り上げですが、毎回完売しています。購入してくれた方の口コミで「これがあのおいしいお菓子?」と、あらたに購入してくれる方「楽しみにしていたの」と毎回購入してくれるリピーターもいます。

販売を担当する職員も購入者の「ナ

マの声」を聞けるので、励みにもなりますし、新製品開発の意欲やヒントを得ることが出来ています。もちろん、利用者さんにとっても定期的に販売する機会を得たことが、大きなモチベーションになっていっているのは言うまでもありません。購入した方が笑顔になれるお菓子を作っていきたいと思えます。



## 児童発達支援事業

### ●はあとぴあキッズ

はあとぴあキッズ・分室では、二月の二、三、四日にクリスマス会を行いました。サンタを見たお子様たちは目をキラキラとさせてとても嬉しそうでした。年長・年中児のグループの会では、それぞれのグループ毎に発表会を行いました。日々の成長が感じられ、支援者にとってもとても嬉しい一日となりました。

新年を迎え、療育内で正月遊びを楽



しました。もちつきごっこでは、べったんこ、べったんこの声かけで、お友達を意識しながら力を合わせて行なう様子が見られました。



十一月八日(土)に今年度二回目となる療育講座が行われました。講師に渋谷区子ども総合支援センターチーフアドバイザーの阿久澤栄先生をお招きして、「子どもの将来像を見つめて」の題目でご講演を頂きました。講演では、子ども達の将来に視点を向けて、自分の力で暮らし、自分の力で育つために、今大人が出来ることを知り、関わり方が大切であることに気づくということをお話し頂きました。多くの保護者の方にご参加頂き、保護者の方々の思い

を改めて知ることが出来ました。今後ははあとぴあキッズでは、ペアレントトレーニングや療育講座を通してご家庭での養育や、就学や就園にむけてのサポートを行っていく予定です。

## ●渋谷区長表彰の受賞

渋谷区障害者週間記念区長表彰式が、昨年十二月六日、ケアコミュニティ・美竹の丘多目的ホールで開催され、表彰区分の自立生活者部門において、はあとぴあ原宿から、写真の四人の方々が表彰されました。誠におめでとうございます。

(写真右から池田邦男様、木田育子様、豊田房子様、大谷光央様)



## 成人部 地域支援 相談支援

### グループホーム

市内二俣尾ふたまたおに開設を予定しているグループホーム(すてつぷ小中尾のユニット)は、建築を請け負っていただく事業者選定を一般競争入札の方法で①十月十日 ②十一月十五日に行いましたが、応募企業の辞退や落札価格で折り合おうことが出来ず、いずれも不調に終わりました。年明けて、一月二十三日の入札では羽村市の(株)島田組さんが落札され、工事の契約も無事に終え、二月初旬に工事開始の運びとなりました。入札が成立しなかった背景には、新聞などでも報道されていますが東日本大震災やオリンピック関連工事等で資材高騰の影響が大きく、友愛学園に限らず不調に終わっている状況がたくさ  
んみられます。

先日、近隣へ工事のご挨拶に回りましたが、皆さんとても好意的で「工事がなかなか始まらないので、心配していました」と声を掛けて頂きました。七月中旬竣工、八月入居開始の予定です。

### 相談支援事業

#### (一) 計画相談

サービスマニュアル等利用計画の作成件数は

徐々に増えて、百五十件を越えました。

いずれも、「作りましょうか」と声を掛けるものではなく、ご本人やご家族、行政から依頼があつて初めて作るものなので、数がなかなか読めない状況があります。ただ、作成可能件数は限られるので、ひと月一〇件弱に抑えています。成人部・福作・グループホーム・児童部の放課後等デイサービス等の法人事業を利用する方だけでなく、それ以外の在宅の障害者の作成もしています。

計画案作成後のモニタリングの数も増えており、月二十件前後になっています。いずれも一人で対応するには限界があり、次年度は一部複数対応で改善を図りたいと考えます。

青梅市の十二月末時点の作成状況は計画相談六十五%、障害児四十五%と報告されていて、放課後等デイサービスなどの児童の計画相談が遅れている状況があります。同一法人の計画相談に限定している事業所もあり、なかなか難しい状況です。

自立支援協議会の相談支援部会では、市内の相談支援事業者の方たちと一緒に計画相談の検討会を毎月開いて、レベルアップに取り組んでいます。

## 青梅市障害者 就労支援センター

### 交流会開催される

当センターでは、センターに登録している皆様を対象に、年に二回、交流会を開催しています。

交流会は、普段なかなか会えない働く仲間や働く意欲を持つ仲間と交流を深め、仕事の悩みを相談したり、お互いを励ます場となっています。

今年の交流会は、十二月二十日にクリスマス会として、青梅市福祉センターで開催されました。皆様が楽しめるように会場を飾り、チキンやケーキ、お菓子を用意してスタートしました。

交流会は司会進行をはじめ、参加される登録者の皆様が進められます。昨年の交流会にて立候補で決まった幹事さんが司会を務め、自己紹介やクイズ・ビンゴ大会を行いました。



自己紹介では、単に氏名や所属している会社等だけではなく、会社のアピールや自己アピール、中には特技を披露して場を盛り上げてくれた方もいました。

クイズでは、おもちゃ用のカプセルにクイズを入れ、皆様が順にクイズの出题者となり難問を解きました。一ひねり二ひねりあるクイズでしたが、「ハイ!」と手を挙げて積極的に参加されました。

恒例の大ビンゴ大会では、皆さんカードと睨み合い、希望しない数字が出ると溜息が漏れました。今年は豪華賞品だけではなく、その場で写真を撮り、記念として持ち帰ってもらいました。

わずかな時間でしたが、旧友や職場の仲間にとどまらず、新たな仲間とひと時を楽しみ、明日への活力になってもらえば幸いです。



# イベントメニュー

## ●平成二六年度主任リーダー法人研修

昨年十一月二一日友愛学園成人部の新装なった作業棟二階を利用して標記の研修が実施されました。法人が行っている各事業の中核を担っている主任、リーダーのうち二〇人が参加して、今年度は、「障害児者支援施設で働くこと」をテーマとして朝一〇時から午後五時まで実施されました。午前中は、法人事務局長から「指導職に期待されること」と、児童部施設長から「障害児者制度の流れ」と題して講義が行われ、午後はそれぞれ五人のグループに別れグループ討議と、盛りだくさんの研修が



実施されました。

友愛学園の将来を担う貴重な人材達が、一層の能力アップを図り、法人の施設運営に一層の貢献をしてくれるものと期待をしています。

## ●理事・評議員会の開催

理事・評議員会が一月二四日土曜日午後一時から友愛学園成人部作業棟二階で開催されました。

二六年度の第三次補正予算案、新しいグループホームの建築契約案件、浄化槽の改修工事の入札案件、人事給与制度の改正に関する給与規程の改正など関係規程の整備案等七件の議案が審議に付され、いずれの議案に対しても質疑応答の後、満場一致で議決されました。

次回の理事・評議員会は三月二日の土曜日に予定されています。

## ●人事給与制度変更に伴う最終説明

職員の人事給与の抜本的な制度改正に向けて三年に亘って議論を重ねてきた「人事給与検討委員会」の議論もいよいよ最終段階に入り、昨年十二月から今年一月にかけて人事給与制度の改正に向けて、友愛学園に所属するすべての職員を対象に、五回に亘って、制度変更の内容について説明会が開催されました。

説明会では、法人事務局長から具体的な制度、内容について、給与体系が大きく変わること、人事考課が導入されることなどの説明がされました。来年度（今年四月）から、制度の変更が実施に移される予定です。

## ●人事考課に関わる考課者研修の実施

人事給与制度の変更に伴い、人事考課制度が導入されますが、この人事考課は、職員の序列化、差別化を目的とするものではなく、職員の育成を主眼とした考課を実施していくことを大きな目的として行われます。

そのため、人事考課の最初の段階である職員面接が重要な役割をしめるため、その面接を行う、考課者のための研修会が二月と三月に延べ五回にわたって実施される予定です。



## 後援会へのご加入案内

当法人では後援会にご加入いただける方を募っております。ご協力くださる方は左記までお問い合わせ下さい。詳しいご案内をさせていただきます。

**目的** 友愛学園の事業を後援すること  
を目的としています。

**会費** 一口 千円

**連絡先** 友愛学園 後援会事務局

**電話** 〇四二八―七四一五四五三

**FAX** 〇四二八―七四一六〇八七

## 編集後記

●高齢者施設を運営する法人の運営の基本となる介護報酬が削減されました。今回は障害者施設への同じ削減の適用は見送られましたが、しかしこの措置がいつまで保障されるのかは非常に不透明です。社会福祉施設の修繕等に必要費用を国が助成する制度の予算も数年前に大きく削減され、修理費用の捻出に頭を悩ませている法人も多く、報酬削減の影響は図りしれません。社会福祉法人の現状の理解を願うばかりです。

三年間お世話になりましたが、三月で定年退職いたします。友愛学園の益々の発展を祈念しています。

〈〇〉